

平成元年度作況一覽

秋播小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
不良	平年並	不良	不良	不良	平年並

I. 気象概況

昭和63年9月から平成元年10月までの概況は次のとおりである。

昭和63年9月：

気温は上旬がやや低く、中旬はかなり高く、下旬は平年並であった。降水量は少なかった。日照時間は平年並であった。

10月：

気温は上旬がやや高かったが、中・下旬はかなり低かった。降水量は少なかった。日照時間は平年並であった。

11月：

気温は上・中旬がかなり低く、下旬は平年並であった。降水量は上旬がやや多く、中旬は少なく、下旬はかなり多かった。日照時間は多かった。降雪始は11月3日で平年より4日遅かった。

12月：

気温は上・中旬がかなり高く、下旬はかなり低かった。降水量(降雪)は中旬がやや多く、下旬はかなり多かった。根雪始は12月16日で平年より13日遅かった。

平成元年(昭和64年)1月：

気温はかなり高かった。降雪量は上・中旬が少なく、下旬はやや多かった。

2月：

気温はかなり高かった。降雪量は上旬がやや多かったが、中・下旬は少なかった。

3月：

気温はかなり高かった。降雪量は上旬が多かったが、中旬は少なく、下旬は平年並であった。日照時間はやや多かった。根雪終は3月22日で平年より20日も早かった。積雪期間は97日で平年より33日短かった。

4月：

気温は上・中旬がかなり高く、下旬はかなり低かった。降水量は上・中旬がかなり多く、下旬は著しく少なかった。日照時間は上旬がやや少なく、中旬は平年並、下旬はやや多かった。耕鋤始は4月24日で平年より4日早かった。

5月：

気温は上・中旬が低かった。5月6日に晩霜があり平年より2日遅かった。降水量は上旬が著しく少なく、下旬は多かった。日照時間はやや多かった。

6月：

気温は低く経過した。降水量は中旬が著しく少なかった。日照時間は上・中旬がやや多く、下旬が少なかった。

7月：

気温は上旬が低かったが、下旬は著しく高かった。降水量は少なく、日照時間は上・下旬が多かった。

8月：

気温は上旬が高く、中旬はやや低かった。降水量は上旬が少なく、7月下旬から8月8日までは干ばつの状態が続いた。日照時間は多かった。

9月：

気温は上旬が高かった。降水量は上旬が多く、日照時間は上・中旬が少なかった。

10月：

気温は上旬が低かったが、中・下旬は高かった。降水量は上旬が多かった。日照時間は平年並であった。

以上、農耕期間(4月～10月)の気象を要約すると、積算平均気温は3095℃で平年(3034℃)より61℃高かった。降水量は654mmで平年より29mm多かったが、7月は33mmで平年の41%であった。日照時間は1438時間で平年(1359時間)より79時間多かった。

季節表

年次	根雪始 (63年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	12.16	3.22	97	4.26	4.24	5.6	11.2	178	11.14
平年	12.3	4.11	130	4.18	4.28	5.4	10.15	164	10.3
比較	13	△20	△33	8	△4	△2	17	14	15

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

農耕期間の積算値

項目 期間		平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～ 10月	本年	3,095	4,142	2,037	654	1,438
	平年	3,034	4,105	1,958	625	1,359
	比較	61	37	79	29	79
5～ 9月	本年	2,576	3,308	1,835	434	1,078
	平年	2,578	3,329	1,825	466	997
	比較	△2	△21	10	△32	81

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

II. 平成元年度の作況

1. 秋播小麦 平成元年度の作況:不良

事由: 播種は平年より6日早い9月8日に行った。播種直後に降雨があり、十分な土壌水分が得られ出芽は極めて良好であった。越冬前の草丈の伸長は良好であったが、土壌水分が多く一部葉身の黄化がみられた。根雪始は12月16日で平年より13日遅かった。冬期間の気温は高めに経過したため、積雪量は3月に入り急激に消雪し、根雪終は3月22日で平年より20日も早かった。雪腐病の発生は極めて少なかった。融雪後も気温が高く推移したため、生育は進み幼穂形成期は4月中旬で例年より1週間は早かった。出穂期は平年より5日早く、成熟期も平年より4～5日早かった。しかし、4月下旬から5月上旬までの降水量の不足による干ばつの影響が残り、稈長は平年より6cm短く、穂数も平年より著しく少なかった。このため、子実重は平年より著しく劣る以上により、平成元年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		ホロシリコムギ			タクネコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(昭63.月.日)		9.8	9.14	△6	9.8	9.14	△6
出芽期(昭63.月.日)		9.14	9.23	△9	9.13	9.23	△10
出穂期(月.日)		6.7	6.12	△5	5.30	6.4	△5
成熟期(月.日)		7.22	7.26	△4	7.14	7.19	△5
草丈 (cm)	昭63.10月20日	24	17	7	24	18	6
	5月20日	50	46	4	45	46	△1
	6月20日	98	101	△3	92	102	△10
茎数 (本/㎡)	5月20日	548	1024	△476	684	988	△304
	6月20日	433	557	△124	566	654	△89
成熟期に おける	稈長(cm)	91	97	△6	86	92	△6
	穂長(cm)	8.3	9.0	△0.7	8	8	0
	穂数(本/㎡)	430	542	△112	562	619	△57
子実重(kg/10a)		403	556	△153	311	493	△182
リットル重(g)		771	771	0	793	791	2
千粒重(g)		46.5	46	0.5	40	41.7	△1.7
品質(等級)		1	1	—	2中	1	—
子実重平年対比(%)		72	100	△28	63	100	△37

注) 平年値は前7か年中、昭和61年、62年(各収穫年度)を除く5か年平均。

2. 大豆 平成元年度の作況: 平年並

事由: 播種期は5月17日で、平年より3日早かった。5月下旬に適度の降雨に恵まれ、気温も平年並に推移したため、出芽期は平年に比べて4～5日早まった。出芽後6月上旬より7月上旬にかけて気温は低く推移したが、7月中旬以降気温は高く推移したため、開花期は平年並となった。8月上旬は高温寡雨に推移し、中旬には降雨に恵まれたため生育は順調であった。さらに8月下旬以降気温及び降水量は平年並に推移したため、中生の「北見白」及び「ユウヒメ」の生育は順調であった。しかし、10月上旬の気温は低く推移し、降水量は著しく多かったため、晩生種の「ユウヅル」は空莢が多くなった。「北見白」及び「ユウヒメ」の成熟期は1～4日早く、主茎長は8月上旬の寡雨の影響で両品種とも平年を下回ったが、主茎節数はほぼ平年並であった。分枝数は、両品種とも平年を上回った。収量構成要素についてみると、両品種とも百粒重は平年をやや下回ったものの着莢数及び一莢内粒数は平年をやや上回った。子実重は「北見白」は平年並で、「ユウヒメ」は平年を上回った。一方「ユウヅル」の成熟期は平年並で、主茎長は他の品種同様8月上旬の寡雨の影響で平年を下回り、主茎節数も平年を下回ったが、分枝数は平年並であった。収量構成要素についてみると、着莢数、一莢内粒数及び百粒重ともに平年を下回ったため、子実重は平年を大きく下回った。

以上の3品種の生育結果からみて、平成元年度の作況は平年並である。

品種名 項目/年次	北見白			ユウヒメ			ユウヅル			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.17	5.2	△3	5.17	5.20	△3	5.17	5.20	△3	
出芽期(月.日)	6.6	6.1	△4	6.7	6.11	△4	6.6	6.11	△5	
開花期(月.日)	7.26	7.27	△1	7.27	7.29	△2	8.2	8.2	0	
成熟期(月.日)	10.5	10.6	△1	10.4	10.8	△4	10.17	10.17	0	
主茎長 (cm)	6月20日	6.6	6.1	0.5	7.3	6.7	0.6	6.7	5.4	1.3
	7月20日	31.9	28.3	3.6	32.7	27.8	4.9	29	25.2	3.8
	8月20日	52.5	59.9	△7.4	53.6	59.4	△5.8	69.6	71.7	△2.1
	9月20日	51.5	59	△7.5	52.7	60	△7.3	67.2	73.8	△6.6
	成熟期	51.2	59.4	△8.2	51.4	59.2	△7.8	64.7	72.4	△7.7
主茎節数 (節)	6月20日	0.7	0.4	0.3	0.4	0.3	0.1	0.5	0.2	0.3
	7月20日	6.7	5.8	0.9	6.6	5.4	1.2	6.4	5.3	1.1
	8月20日	14.3	13	1.3	14	13	1	16.2	14.9	1.3
	9月20日	14.1	13.4	0.7	14.3	13.2	1.1	16.4	15.4	1
	成熟期	13	13.3	△0.3	14	13.1	0.9	13.6	15.1	△1.5
分枝数 (本/株)	7月20日	2.7	1.8	0.9	3.9	1.7	2.2	2	1.1	0.9
	8月20日	7.1	4.8	2.3	9.4	6.2	3.2	7.7	4.2	3.5
	9月20日	7	4.7	2.3	7.8	6	1.8	5.8	4.3	1.5
	成熟期	6.6	4.9	1.7	6.8	5.7	1.1	4.6	4.3	0.3
着莢数 (莢/株)	9月20日	94	80.1	13.9	76.6	59	17.6	63	59	4
	成熟期	90.7	82.7	8	59.4	57.5	1.9	43.7	57.5	△13.8
一莢内粒数(粒)	2.46	2.24	0.22	2.24	1.96	0.28	1.73	1.83	△0.10	
子実重(kg/10a)	329	325	4	359	308	51	218	297	△79	
百粒重(g)	23	25.6	△2.6	37.7	41.5	△3.8	39	41	△2.0	
虫喰率(%)	0.3	0.5	△0.2	1.1	0.3	0.8	1.1	0.6	0.5	
品質(等級)	3上	2	—	3下	2下	—	3下	2	—	
子実重平年対比(%)	101	100	1	117	100	17	79	100	△27	

注) 平年値は前7か年中、昭和57年、63年を除く5か年平均。6月および7月の主茎節数は本葉数。

3. 小豆 平成元年度の作況:不良

事由:播種期、出芽期ともほぼ平年並であった。しかし、6月下旬から7月上旬にかけて気温が平年を下回り、生育は劣った。開花期は7月27日とほぼ平年並であったが、7月下旬から8月上旬は、高温、多照で降水量が少なく、停滞していた生育は回復せず、また落下が多少みられた。その後、8月下旬から9月下旬まで降雨が断続し、また最低気温が高めに推移したため、上位節の莢の伸長、肥大が続き登熟が遅延し、10月1日における熟莢率は63%で未成熟のまま収穫した。以上のことから、子実重は平年並ながら、過熟粒、未熟粒が多く品質は劣った。

以上により、平成元年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	エリモショウズ			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.20	5.19	1	
出芽期(月.日)	6.6	6.11	△5	
開花期(月.日)	7.27	7.28	△1	
成熟期(月.日)	(63%)	9.8	—	
主茎長 (cm)	6月20日	4.8	3.3	1.5
	7月20日	8.9	14.4	△5.5
	8月20日	33.6	44.4	△10.8
	9月20日	32.8	45.4	△12.6
主茎節数 (節)	6月20日	0.8	0.8	0
	7月20日	4.1	5.6	△1.5
	8月20日	12.0	12.0	0
	9月20日	11.2	11.8	△0.6
分枝数 (本/株)	7月20日	0.8	1.5	△0.7
	8月20日	2.8	3.2	△0.4
	9月20日	3.1	2.8	0.3
着莢数 (莢/株)	8月20日	26.4	32.6	△6.2
	9月20日	35.8	39.9	△4.1
一莢内粒数(粒)	6.35	6.20	0.15	
子実重(kg/10a)	235	230	5	
百粒重(g)	14.1	12.0	2.1	
屑粒率(%)	1.7	2.1	△0.4	
品質(等級)	等外	2中	—	
子実重平年対比(%)	102	100	2	

注) 平年値は前5か年平均。成熟期の本年は10月1日における熟莢率。6月および7月の主茎節数は本葉数で昭和59年を除く4か年平均。9月20日の平年の主茎長、主茎節数、分枝数及び着莢数は成熟期の値である。

4. 菜豆 平成元年度の作況:不良

播種は平年より6日早く、播種後は降水量に恵まれたため、出芽期は平年に比べて8日早くなった。開花始は、6月下旬、7月上旬の低温により生育が抑制され、平年より4日早くなった。しかしながら、開花時期の7月下旬から8月上旬までは気温が高く降水量が少ないため、着莢数と一莢内粒数は平年を下回り、主茎長は短く、主茎節数も少なかった。このため、成熟期が平年より2日早まり、着莢数は少なく、百粒重も軽くなったので、子実重は平年比81%にとどまった。以上により、平成元年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		改良早生大福		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.19	5.25	△6
出芽期(月.日)		6.6	6.14	△8
開花期(月.日)		7.14	7.18	△4
成熟期(月.日)		9.4	9.6	△2
主茎長 (cm)	6月20日	15	12	5
	7月20日	236	231	5
	8月20日	291	296	△5
	成熟期	269	299	△30
主茎節数 (節)	7月20日	15.8	18.2	△2.4
	8月20日	21.6	23.1	△1.5
	成熟期	21.5	23.5	△2.0
分枝数 (本/株)	7月20日	4.5	4.9	△0.4
	8月20日	4.6	3.4	1.2
	成熟期	3.3	3.3	0
着莢数 (莢/株)	8月20日	41	33.1	7.9
	成熟期	39.6	42	△2.4
一莢内粒数(粒)		3.69	4.39	△0.70
子実重(kg/10a)		234	289	△55
百粒重(g)		59.2	66.9	△7.7
屑粒率(%)		6.4	3.7	2.7
品質(等級)		4	3	—
子実重平年対比(%)		81	100	△19

注)平年値は前7か年中、昭和60年、61年を除く5か年平均。ただし、成熟期以外の主茎長・主茎節数・分枝数・着莢数および成熟期の主茎節数は欠測の昭和57年、58年も除く3か年平均。一莢内粒数は欠測の昭和57年も除く4か年平均。

5. ばれいしょ 平成元年度の作況:不良

事由:植付けは平年より4日早い5月2日に行った。萌芽期は平年より3日早かった。6月上・中旬は低温であったが、生育は平年並であった。その後も7月中旬まで低温で、茎長の生育は平年より9～12cm劣った。7月下旬から8月上旬は高温に経過し、降水量も著しく少なく、干ばつの影響を受けた。このため、茎葉の黄化が急激に進み、枯凋期は平年より3～16日早まった。このため、塊茎の肥大が劣り、上いも重は平年より著しく劣った。以上により、平成元年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		男爵薯			農林1号		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期(月.日)		5.2	5.6	△4	5.2	5.6	△4
萌芽期(月.日)		5.3	6.2	△3	5.29	6.1	△3
開花始(月.日)		7.1	6.30	1	6.30	6.29	1
枯凋期(月.日)		8.29	9.1	△3	9.7	9.23	△16
茎長 (cm)	6月20日	19	18	1	25	22	3
	7月20日	31	40	△9	48	60	△12
	8月20日	31	43	△12	48	72	△24
茎数 (本/株)	6月20日	4.4	4.4	0	5.1	5.3	△0.2
	7月20日	4.3	4.6	△0.3	5.7	5.5	0.2
	8月20日	4.3	4.3	0	5.7	5.3	0.4
上いも重(kg/10a)		2,865	3,340	△475	3,965	4,556	△591
でん粉価(%)		15.8	13.9	1.9	15.9	14.7	1.2
でん粉重(kg/10a)		424	431	△7	591	624	△33
上いも重平年対比(%)		86	100	△14	87	100	△13
でん粉価平年対比(%)		114	100	14	108	100	8
でん粉重平年対比(%)		98	100	△2	95	100	5

注)平年値は前7か年中、昭和57年、58年を除く5か年平均。ただし「男爵薯」の開花始は不開花に終わった昭和60年も除く4か年平均。「上いも」は20g以上の塊茎である。

6. てんさい 平成元年度の作況: 平年並

事由: 播種は平年並の4月5日に行った。発芽は順調で、4月11日に発芽期に達した。移植期は5月9日で平年より3日遅かった。移植後、低温が続いたが活着は良好であった。その後、7月中旬まで全般に低温に経過したため、生育は遅れ気味であった。7月下旬からの高温により、生育は旺盛となり、8月に平年より良好となった根部の肥大は、収穫期まで順調に持続した。根重は7.67t/10aで平年の103%であった。生育後半は気温が高めに経過したこと、降水量が多く、曇天日が多かったため、畑の湿润状態が続いたことにより、根中糖分は16.14%で平年の96%であった。糖量は1238kg/10aで平年とほぼ同じ収量であった。以上により、平成元年度の作況は平年並である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノヒカリ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.5	4.5	0
移植期(月.日)		5.1	5.6	4
収穫期(月.日)		10.16	10.16	0
草丈 (cm)	5月20日	3.3	4.1	△0.8
	6月20日	28.4	24.5	3.9
	7月20日	48.0	49.9	△1.9
	8月20日	51.9	58.0	△6.1
	9月20日	53.2	58.9	△5.7
	収穫期	52.3	60.3	△8.0
葉数 (枚)	5月20日	2.3	2.4	△0.1
	6月20日	9.5	9.9	△0.4
	7月20日	20.3	19.7	0.6
	8月20日	25.5	26.4	△0.9
	9月20日	29.6	29.2	0.4
	収穫期	28.7	26.5	2.2
根周 (cm)	7月20日	21.4	22.4	△1.0
	8月20日	31.5	31.4	0.1
	9月20日	36.6	35.9	0.7
	収穫期	38.9	38.0	0.9
茎葉重(t/10a)		4.61	5.53	△0.92
根重(t/10a)		7.67	7.46	0.21
根中糖分(%)		16.14	16.75	△0.61
糖量(t/10a)		1,238	1,235	3
根重平年対比(%)		103	100	3
根中糖分平年対比(%)		96	100	△4
糖量平年対比(%)		100	100	0

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、63年を除く5か年平均。